





10 ŧ

大分百山発刊によせて		1
支部定例総会報告		2
本谷山、笠松山		2
可愛岳		3
青野山、十種ケ峰		4
雨乞岳から倉木山		5
久しぶりのハードな雪山		5
南アルプス北部縦走		7
四姑娘山トレッキング③		8
私の無名山ガイドブック⑨		9
総会の返信より	1	0
オススメ映画	1	0
お知らせ	1	1
後記	1	

支 月 4 2 0 日

皆様のご協力のもと、このたび発刊にこぎつ「登山ガイド大分百山」(改訂版)が支部会員

けることができました。

い立つ山々と、草波の続く高原、いたるところ

大分県の自然はすばらしく美し

梅 木 秀

大分百山

(改訂版)の

支部会員の力の結集

いう声が、支部会員や一般の山好きの人たちのや宮崎県でも「名山」を選んでみたらどうかと 氏の「日本百名山」の刺激を受けて全国で名山せたことに端を発しています。当時、深田久弥五年七月に宮崎支部は分離独立)を記念誌に載 らず一〇〇の山を選ぶこととなりました。 るため、あえて「名山」と言う呼び名にこだわ りました。選定に当たっては、大分・宮崎とい は大分・宮崎の山々を改めて認識する契機とも 中から上 したのは、支部創立三〇周年を記念する一九九日本山岳会東九州支部が大分百山の初版を発行 な山々を、 いささか抵抗があるうえ、誤解も生む恐れ 選定が流行していました。そうした中で大分県 〇年前の一九八〇年、 歴史を再認識してほしいという願いを込めて、 に紹介し、山に代表される大分の自然を理解し、 分の風土の中でも、とりわけ変化に富んで多彩 かな海。こうしたすばらしい自然に恵ま 瞳のように澄んだ湖沼。そして青く広がる穏や に湧き出す温泉。その間を縫う清い川の流れや、 し、「大分百山・宮崎百山」(当時の東九州 狭い地域でもあり、「名山」と言う呼び名には 大分県と宮崎県の会員で構成、 、「大分百山・宮崎百山」(当時の東九州支部年前の一九八○年、支部創立二○周年を記念もともと大分百山は今をさかのぼること約二 年二月でした。 がっていました。それに応えて支部で という考えで選定を試みることにな 山に登ってみたいという人々のため 記念誌に搭載した「大分百 その 後一九八 れた大

大分百山」であります。 したのが初版の「登山ガイド・ などで実地に踏査する中で出版 手分けし、または支部月例山行 山」について、その後支部員で

の問い合わせも相次いでいまし 求める声は後を絶たず、またそ 版としました。しかし、再版を 支部の資金的な事情もあり、 版依頼も相次いでいましたが、 瞬く間に完売されてしまい、増 全国各地から注文が舞い込み、 初版は大分県内のみならず、

販をめざすこととなり、この度 の出版にこぎつけました。 記念する事業の一環として、 そのため支部創立四〇周年

もあります。 対象としての価値が変貌した山 またそうした影響の中で登山の り通行不能になっていたりして ッシュ化などでルートが消えた 遊歩道の整備等で新しいルート いるところがたくさんあります。 が生まれたり、逆に風倒木やブ 一〇年の間には、林道工事や

に深く敬意を表する次第であり とともに、尽力して頂いた会員 山一改訂版」としたところです。 ついても再調査を行い「大分百 直しを行うとともに、ルートに 初版の「百山」を踏襲している 版できましたことを誇りに思う 再版にあたっては全体的に、 会員の力の結集として再 山の選定にも若干の手

例

総

会終わる

二〇〇二年度支部定

査報告があり一括承認された。 報告など。その後決算報告、 行事の報告、毎月の月例山行の で本部、支部関係の各種会議や

二〇〇二年度事業計画では本

り組みをで映

台

9

議事は二〇〇一年度事業報告

四月二〇日(土)午後六時より

二〇〇二年度支部定例総会が

の計画、月例山行では本年度は 部、支部関係の各種会議や行事

「人影の少ない山」をテーマに

藤宏史会員を選出した。

席者は委任状を含めて六五名

(支部員七九名) で、議長に首

会員の投稿を募ることなどが決

このあと二〇〇二年

部会報も定期発行が定着化して 年間計画が決定された。また支

いるが、今年も年四回を予定し

F)視聴覚室で開催された。出 大分市のコンパルホール (4

分百山 の取り扱 改

本部、

全国各支部、

県内

次のように決まりました。会員 の皆様のご協力をよろしく れた役員会において協議の結果、 り扱いについて、二四日に開か 「大分百山(改訂版)」の取

お願いします。

・会員の皆様には販売にご協 ・執筆者 (写真提供者含む) します。 来て下さい。) には一冊づつ進呈することと ととします。 要図書館等に進呈配布するこ (各執筆者は事務局に取りに

(定価一,五〇〇円(税込 とします。 販売目標は一人一〇冊 力をお願いします。

途販売依頼する予定で に取りに来て下さい。 (会員の皆様は事務 県下有名書店には別

(加藤)

等は役員会に取り扱いを一任さ 国際山岳年の具体的取り組みや かたことが報告された。なお、 うど当日印刷完成にこぎつけた 記念して高校生を初めとした若 を支部で取り組むこととなった。 者を山に案内する特別企画行事 年は『国際山岳年』で、 度予算案が承認され 「大分百山(改訂版)」がちょ 「大分百山」の配布や販売計画 また、延び延びになっていた その他の議題として、

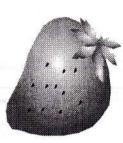
として『映像史ーヒマラヤへの キング』などのビデオ放映が有 道』『エベレストコーストレッ 総会終了後はアトラクション

0 ます。 支部会費一, 会費)の払い込みをお願いし 支部会員、 〇〇〇円(年間 会友の皆さん、

支部の月例山行には是非お で下さい。 支部会員、 会友の皆さん、

(飯田)

監



これを 特に今 領の山」を兼ねる) 「重廣氏と歩く分水 (一月月例山行報告)

笠松山

二六日(土)、二七日(日)

加 藤 英 彦

った。 県版として本谷山、笠松山であ が登ったのは大分県側からとな となった。宮崎県版ではあった り支部の月例山行と兼ねた行事 と歩く分水嶺の山の企画の宮崎 一月月例山行 は重廣恒 一夫さん

藤(秀)西(あ)が空港へ。 番機でたった重廣氏を迎えに佐 まず一月二六日、大阪を朝

ルでさっそくの乾杯となる。 曇ってしまうほどである。ビー 傘をさしての入浴となる。撮影 脱いだ衣類をビニールにつめ、 め、さっそく湯かげんをみて、 しようにも湯気と霧でカメラが も雨の中を車で終点まで上り詰 望する景色も見えない。それで くの天候、霧で全く別府湾を一 案内する。知る人ぞ知る秘湯 合わせ通りまず『へびの湯』へ へ内山に入る道を左折。あいに 『へびの湯』は明礬温泉から左 別府観光港にて合流して打ち

然お会いしているので再会の乾 ネパール行きの飛行機の中で偶 実は、私は重廣氏とは年末の

内してサニーへ も、なかなか上がる機会を捉え も、なかなか上がる機会を捉え をしての入浴となる。重廣氏も満足 をしての入浴となる。重廣氏も満足 をしての入浴となる。重度氏も満足 をしての入浴となる。しばし入浴を楽しむ

跡地の山びこ塾になる。 を期のため閉じられているとの を期のため閉じられているとの さて今回の宿は、当初尾平の

飲む仕草だ。
かいの中四時すぎ到着。雨の中管理人が部屋掃除やストーブ中管理人が部屋掃除やストーブは祖母山頂小屋の管理人だった佐藤雪晴氏も九十歳を過ぎてもまだった佐藤雪晴氏も九十歳を過ぎてもまだったということが。聞だけは欠かさないと言って一杯がか仕草だ。

一番遅い到着予定の西(孝)一起こし、もう一品は鍋物とする。 案内した通り『竹田ホルモン』 案内した通り『竹田ホルモン』 すぐに夕食の準備へ取りかかる。

が網の上で焼かれている。 できれた、管理人差し入れの椎茸をれた、管理人差し入れの椎茸をれた、管理人差し入れの椎茸をして求めただけのものだ。 かっまが はまず いっぱい まず いっぱい まず いっぱい まず いっぱい まず いっぱい まず いっぱい で は かっぱい して おかい して おかい は まる。これが また うまい しさすが 竹田まで 寄り は をして 求めただけのものだ。 な 網の上で焼かれている。

員十五名が揃ったところで再度すぐに西(孝)一行も到着、全

続いたことは確かである。がりを見せる。古い校舎の教室がしとしと降っているが、延々がしとしと降っているが、延々がしとしと降っているが、延々がしとしと降っているが、延々がしとしと降っているが、延々がして座は大いに盛り上の乾杯をして座は大いに盛り上

見当たらない。稜線に出ると風 なる。天侯も風が強く時折小雨 用意を済ませて登山開始(七 平トンネルの入口左へ車を止め 三台に分乗して十三人出発。尾 の残りにお餅やうどんを入れた の雨は止んでいる。朝食は昨夜 一月二六日、朝五時起床。外 のまま本谷へ向かう。 報では回復する予定であり、そ かって見通しも良くないが、予 と木々をゆらしている。霧がか がますます強烈となりゴーゴー 急登で縦走路に先行した四名が のばらつく中、所々凍った岩の 時)すぐに縦走路までの急登と 分、使用した部屋を片づけて車 察を兼ねて出発。本隊は六時十 部の二台で上畑林道上部まで偵 だけで十分。佐藤(正)、渡

が追いついてきて、後の二人はからで登っていく。後の組を待ったで登っていく。後の組を待ったで登っていく。後の組を待ったで登っていく。後の組を待ったが、相変わらず風が強い。林間が流れており快適な尾根歩きだが、相変わらず風が強い。林間が追いで登っていく。後の二人はからで登っていく。後の二人はからでした四名のうち二名

下山したとのこと。

下山したとのこと。

下山したとのこと。

下山したとのこと。



本谷山頂 十時五十分着。見通本谷山頂 十時五十分着。見通しの悪い山頂には九折側から登しの悪い山頂には九折側から登れて十一を交換する。交差縦走起で本日の最高点(一六四二,点で本日の最高点(一六四二,点で本日の最高点(一六四二,点で本日の最高点(一六四二,点で本日の最高点(一六四二,点で本日を交換する。交差縦走の型を取れば、全員が同じ道をの型を取れば、全員が同じ道をの型を取れば、全員が同じ道をいる。

ピークも快調に飛ばす。 で展望台を過ぎ、一五〇四mののがきれいな瞬間がある。トクらされた霧氷が白く輝いているりの多い縦走路となり、時折照

を松ピークは先行する三名が 登り(一二時)後は手前をトラ 後は二つほどコブを越して、最 後は二つほどコブを越して、最 後のスズダケが消え、ミズナラ の林を緩く越えると待望の九折 の屋に着く(一二時四五分)。 風もだいぶ弱まってきたが、相 風もだいぶ弱まってきたが、相

下りで到着。

そこには尾平越に下りて車を1台回した佐藤(正)さんが待れ、冬の白く化粧した傾山が見れ、冬の白く化粧した傾山が見れ、冬の白く化粧した傾山が見れ、冬の白く水粧した傾山が見れ、冬の白く水粧したっと天

日の山行を無事終了した。村となり上畑で全員合流して本はを下り、九折登山口から四二台の車に十二人が分乗して

ばと思いつつ分かれた次第であたかどこかの山でご一緒できれだと言うことだがまたいつの日だと言うことだがまたいつの日を回が重廣さんの企画も最後後大分空港まで送る。

を竹田温泉(花みずき)に入浴

本日の最終便で帰る重廣さん

さて、本谷からは全体的に下

重廣・可野(アシックス) 生藤(正)・下田・那須・西親佐藤(正)・下田・那須・西親安・木下・小竹・佐藤(秀)・ 変部・石川・加藤夫

可愛缶

二月十一日 (月)

世がこの山の名前を「えのたけ」と名付けたのだろうか。どけ」と名付けたのだろうか。どい。山谷もよく似ている。大崩で、山容もよく似ている。大崩で、山容をよく似ている。大崩に敗走した道だそうであるとのことにした。
正知隆盛が、西南戦争の時に以た道だそうである。

中で拾って、サニーへ。店に着れて、家を出た。小竹さんを途えて、家を出た。小竹さんを途がったので、あわてて道具を揃かったので、あわてて道具を揃いる。

国道三二六号を宮崎県へと向か ど遅れて三人で出発。今回は、 として有名となり、資料館が造 が、敗戦とともに退却、敗走路 郷隆盛が陣をしいていたらしい わかりにくいので、注意が必要 となる。十号線からの入り口が 資料館」がある。ここが登り口 び入ってすぐの右手に、「西郷 い、北川町で、国道十号線に再 宇目町の隣町の宮崎県北川町。 の寝坊」。予定時刻を二十分ほ 出て来ない。本人日く「二度目 話をかけたり、入口をたたくが シャーシャーと流れている。電 だ。ここは、西南戦争の際に西 レビがつけっぱなしで、 くと、薄暗い。中をのぞくとテ

岩場があるようなことを書いて やかになる。登り口の表示では り再び登山道へ。坂はさらに緩 ここまでのようだ。林道を横切 頂まで林道があるかと思ったが 設している。ひょっとして、山 坂も緩やかで、歩きやすい。お りしており間違うことはない。 りついてしまえば、道ははっき ややわかりにくいが、尾根にと 根に入っていく。入り口付近は に駐車場を出発。 やや薄明るくなった六時二十分 られている。 いに登山口が表示されている。 資料館の右手、日豊線の線路沿 よそ一時間半登ると突然林道 現れる。北川町から林道を建 資料館の駐車場に車を止め、 全くない。 右手前方の尾

のいい場所があり、その場所の 岩が現れ、やがて山頂に着いた。 が多い山である。やがて、三本 案内板といい、わからないこと 中に判明した。山の名前といい、 名称であることに下っている最 らない。さらには、「ノゾキ」 れもどれを指しているのかわか と案内板が現れる。「二本杉」 向かっている最中に、いろいろ 岩場を歩かなくてもいいように 行かなかったが、途中に、景色 所でもあるのか?その場所には も登場する。「覗き」をする場 ン(支石墓)」などなど。いず ルート整備されている)山頂に したところ、道が整備されて、 「百間ダキ」「台場」「ドルメ (午前九時二十分到着) 山頂は

の西郷資料館へ戻った。 も見える。 がある。まっすぐが元来た道だ なり、ここからすぐ先に三叉路 二〇分で「ノゾキ」との分岐と やすい。左手には朝登った尾根 となる。坂も緩やかになり歩き 道に入り、登りと同様の尾根道 で水場に到着。ここからは尾根 谷の方に下っていく。約二〇分 道と違って急坂である。最初は が、ここを右に折れる。登りの 山頂から来た道を戻る。およそ とり、記念撮影をして、下る。 なかの景色だ。ここで、食事を 延岡市街も眼下に望める。なか には、行縢山が見える。そして、 群が目の前に見える。尾根の先 広く景色も、ばっちり。大崩山 下りは、二時間。

> 撮って、直川村の温泉に入って えたものの、津島畑山の写真を 玉さんたちと合流し、頂上で記えて、「鏡山」に向かって、児 山を目指したが、地図を持って 百山の写真を撮るため、津島畑 ることとなった。我々は、大分 かかることを聞いて、 ないらしく、往復で四時間近く もに来ていた。足が調子が良く クラウンではない。奥さんとと 大分に帰った。 念撮影。この後さらに道を間違 いなかったせいもあり道を間違 を断念し、「鏡山」に行って帰 から来たらしく、車もいつもの こになぜか児玉さんがいた。後 登ること

参加者 西 小竹・児玉夫妻・佐



二三日(土)二四日(日 (三月月例登山報告)

佐 秀二

待ち合わせ場所、鹿野サービス 日午前六時に、総勢四名でサニ ーを出発。北九州を過ぎ、次の 今回は、山口県へ遠征。二三

元

うかも不明と言うことで、やむ うでわないか。修理できるかど を出て、携帯電話が使えるとこ ので、先に行ったのかなと高速 九州で、先行したと思っていた 待つ。が、なかなか来ない。北 進むことにした。 先に青野山へ。状況を見ながら なく、私と西さんは、そのまま して、JAFを呼んでいると言 袮インター付近で車がストー ろで連絡を取った。すると、美 エリアで佐藤(正)さんの車

山口がある。登山口の手前と先 があり、そこを下ると津和野町 二時間で往復できる。 くり登ったので、普通の人なら、 もちょっと控えめ。頂上には祠 もあって、少し控えめにバンザ 間二〇分で山頂に到着。(一二 急であるが、トレーニングには おきに看板が出ており残りの距 山頂まで一五〇〇m。一〇〇m には駐車スペースがあり、駐車 っていくと、一〇分足らずで登 の町中へ行くが、逆に山へと入 和野町への入り口に大きな鳥居 座っている。国道九号線から津 をひっくり返したような形で居 ある。津和野町の東側に、お椀 もある。下りは、五〇分。ゆっ イをする。お決まりのヤッホー 時二〇分) 団体さんが居たせい 丁度いい山である。およそ一時 離がはっきりわかる。坂は結構 に困ることはない。登山口から 青野山は、島根県津和野町に

時間が余ったので、 とりあえ

に駐車場があり、

色とともにちょっと呆れた。津 山容を見ながらの移動。登山 十種ヶ峰の富士にも似た美し 昨日来た道を戻ること約三〇分。 た。ここから、十種へ移動する。 時間足らずで往復して戻ってき さん、石川さんが青野山へ。二 翌朝、後で合流した佐藤(正) 近くの道路脇で一夜を過ごした。 の習い」であることを感じた。 真っ盛り。土曜日というのに観 タのようなコイが泳ぎ、バブル 屋と、町を流れる堀川には、ブ その町並みは、今では精彩を欠 和野町散策。小京都と言われる 少々時間があったので、再び津 ちょうど合流した。夜までは、 疲れを癒す。風呂から出ると、 たので一安心。ゆっくり風呂で 時は、引き返すことも考えてい 野へ向かっているとのこと。一 ると、車の修理が出来て、津和 で、佐藤(正)さんと連絡を取 和野温泉なごみの里」へ。ここ の駅に併設の真新しい風呂「津 で、記念展を見て、風呂へ。道 和野町は、西周、森鴎外を輩出 いてある。けばけばしい神社 稲荷神社へ。稲荷にちなんで、 光客もまばら。「栄枯盛衰は き、どこにでも有るおみやげ品 した、文化の町。森鴎外記念館 入口にはお供え用の油揚げが ここで、夕食をとり、登山口 和野町へ降りて、太鼓

食べて、帰途についた。 な津和野名物「うずめめし」を 男美術館などを見学し、昼には、 日の温泉に再び入って疲れを癒 は、別の道を再び津和野へ。昨 ルートを歩いて下る。下った後 せる。バンザイとヤッホーを済 等三角点で、四方の山々が見渡 だ。およそ三〇分で頂上に到着 社があり、信仰の山であるよう 策できる。山頂直下には熊野神 目の前に見える。途中右回り、 し、再度、津和野観光。安野光 左回りの道があり、ぐるりと散 標高差は一〇〇m余り。山頂も (午前九時到着) この山は、一 が底に沈んでいる雑炊のよう 運転手とそれ以外で別の

加者 (正)・西 石川 . 佐藤 (秀) · 佐

> てもらった。今日も少しそんな きヤブこぎで西孝子さんに教え あの鮎返、鋸東、鋸山への道な ぎ登山のぞくぞくする気持ち ない初老の男。数少ないヤブこ 私自身六五歳、もう税金も払わ って何かぶつぶつ言っている。 持ちが浸透していると思うよう らないが、この会には博士の気 く喜びと私はとらえてきた。私 信者じゃないか。三角点に向か になった。西孝子さんは博士の の東九州支部四〇年の歴史は知 は数年前の加入(会友)で、こ 初登山とは始めてのルートを歩 (家に帰れるのだろうか)を、

岳着七時〇〇分。 ノキ林に入り、稜線に出て雨乞 ざす。コンクリート林道からヒ ゲートを六時五〇分発で登山開 始。林道を登りまず雨乞岳をめ で行く。ここに車を置いて林道 雨乞岳牧場から林道をゲートま 五時〇〇分サニー集合出

ルートは歩かないと書いてある。 岳省察」を読むと、博士は同じ 著「初登山」や「山 ガ岳に同感。途中で急に空腹 鳴。左手に見え隠れしている城 れていくうー」と小竹さんの悲 と通過していく。「城ガ岳が離 四 ブこぎを楽しみながら、一〇四 IJ ュとの格闘。私がナタ、園田さ から急な下り二〇分で黒岩峠着。 黒岩山到着八時○五分。黒岩山 ここから先が稜線伝いにブッシ ここから稜線上の縦走開始。 mピーク、一〇四○mピーク ギリの新芽を採取しながらヤ がカマを取り出す。タラやハ

(四月月例山行報告)

四月一四日(日)

部

可

今西錦司



庄内町境界の一一一四m標高点 たところが別府市、湯布院町、 のあるピークである。一〇時三 り、高度差一一〇mを登りつい を食う。そこから一旦鞍部に下 を胃に入れる。西さんはプリン 私はにぎりめしとカンコーヒー おぼえ、一〇六〇mのピークで (黒岩山山頂で)

> 反省。 会がないのでつい饒舌になる。 と畑以外ではあまり人と話す機 がついてるから当然上手。 ように雑談を楽しむ。退職する 例の

板がある。ここから山

頂までの

ある。) 城ガ岳間の楽々マル秘コースで 君が巻き付けてある。倉木山、 は三本の赤テープを佐藤(秀) きた。(このルートの入り口に のすぐ近くに楽に出ることがで スしていき、倉木山直下の鞍部 〇mの等高線上を左にトラバー ベテランの直感と経験のお陰で、 さん、野村さん、園田さんたち 匹 鞍部から少し登った標高一〇二 いけないのだが、私たちは飯田 部に下るとふつうは一度一一一 城ガ岳出発一二時〇〇分。 mピークまで登り戻さないと 鞍

った。 努力で登る。三〇分間はきつか つくり自分のペースで、最後の 心してこの急登一五〇m差をゆ だから縦走を完成させたい。決 るべきか。ここまで頑張ったん さて、ここで第二の思案。登る べきか、林道に出てゲートに帰 眼前にそびえる倉木山を見て

とらない。けろりとしている。

○分。他の会員はあまり間食を

私は一瞬この地点で城ガ岳を断

約三〇分の休憩の後出発。南

念しようかと少し弱気になった。 時〇〇分。別組は林道を通らず、 わった。倉木山登山口到着一五 ○mの急坂を下り完全縦走は終 三角点を通過して、高度差二〇 下る。途中で稜線上にある四等 の私の三人は稜線直登ルートを と分かれて、西、小竹、護衛役 こでゲートの駐車場まで帰る組 倉木山頂一三時四〇分着。こ

こからかなりの急登二五分で二 西へ一五分の下りで鞍部へ。そ

等三角点のある城ガ岳山頂着。

一一時一〇分、黄砂であまり視

付けが評判が良かった。「竹」

休止。昼食。小竹さんの筍の煮 界は良くなかった。初めての大

> になって、途中行方不明。でも、 倉木山にはちゃんと登っている 犬みたいにタラの芽採りに夢中 佐藤(正)さんはシシ追いの猟 のが携帯で証明された。) 駐車場に到着とのこと。 直接谷筋を下って一四時五〇分 (なお

参加 高橋・園田・西・野村 竹・佐藤(秀)・佐藤(正)・ 者 安部・ 飯田・ 河 野

津 宮 隆 史

穂高の朝焼けの写真を狙ってみ ろいろ考えて蝶ヶ岳からの槍・ りに北アルプスもよかろう。い るか。海がないなら山。久しぶ はキャンセルしてしまった。 とう十一月終わりにモルディブ フガン空爆が盛んになり、とう ガルシア島からアメリカ軍のア ルディブのすぐ南のデイエゴ・ まわしい九月十一日の事件でモ 過ごす予定であったが、あの忌 ダイビングと読書でのんびりと 月前にモルディブが予約でき、 さて、では年末年始はどうす 今年の 年末年始は早々と十カ

り変わらず。ザックの重量は三 真に収められたことがよみがえ 焼けで槍・穂高が燃えたのを写 も思えないほどのすばらしい朝 過ごしたが、翌朝にはこの世と 欲もなく、がたがた震えて夜を で送っておく。 大部分を松本のホテルに宅配便 ○はとなった。貴重品は除き、 を立てた。その他は当時とあま 沢を朝に出発できるように計画 根は本当に長い。少なくとも徳 要なファクターは体力。長塀尾 った。さて、今年はどうか。重 ようと考えた。十三年前冬、 き、疲労と寒さでまったく食 を登

懐で温めて撮影するもせいぜい ビデオの電池が凍って動かず、 十二時大正池。寒くて悪天侯。 松本市内でも二十四はあった。 八日、朝七時の「信濃」にて松 には着かず、名古屋で一泊。一 日のうちに当初の計画通り松本 外来を済ませて午後の便で大阪 屋に五~六人が宿泊していた。 沢ではテントが三張り。冬期小 上高地も吹雪。人が少ない。明 大正池は半分くらい凍っている。 十秒ぐらいしか撮影できない。 シーで入る。今年は雪が多く、 本へ。十一時に中の湯までタク 一時間半かかってとうとうその さて十二月二七日、午前中の 徳沢と吹雪の中を進む。徳 大阪空港から新大阪までに テントで過ごす快

朝焼けはすばらしかった。徳沢 えるがあの時より出発が五時間 尾根に入ってみるとトレースは とのこと。長塀尾根には今日も 沢冬期小屋に行き、ルートを確 をつぶすことにする。しかし、 感に酔う。 ある。十三年前の悪夢がよみが 誰も入っていない。そこで長塀 屋宿泊組がピストンに出かけた 赤に染まり、快晴であった。 (これにごまかされた) 早速徳 木立ちから見える前穂高は真 めると横尾から昨夜の冬期小 ければ上高地辺りの撮影で暇 夜、星が出てきた。

りにかかる。二四〇〇m地点で どと一人で考えながら順調に登 0 中を登りにくかろう。(これも とにする。横尾は急斜面で雪の 早い。よって長塀尾根を取るこ 話になった本田氏だった。 手伝ってくれた。これが翌日世 がら、蝶ヶ岳冬期避難小屋へ行 が強い。ピッケルで体を支えな っている。 に飛び出る。穂高が雪雲をまと 妖精の池まで四時間以上かかっ ている。かなり疲労してきた。 グループの足跡がはっきり残っ テント二張り。ここからはこの りより体力消耗は少ない。)な 落とし穴だった。雪山の急斜面 る。さらに二時間かかって稜線 ほうが長々としただらだら登 妖精の池は雪に覆われてい から誰かが荷物の搬入を 槍は雲の向こう。風 冬期

> い。一五度くらいか。悪い兆候ることにする。八時就寝。暖か とは明日考えようと夕食の準備 風が強くて下降口までいけなか るべく、頂上に行ってみるが、 と。横尾からの下降路を確かめ は明日は低気圧のため、猛吹雪 私もその横に張る。彼らの話で 単独一人がテントを張っていた。 である。 の様子は分からない。早々と寝 かなり風が強くなっている。外 スパゲティー。到着時に比べて った。テントに戻って明日のこ 小屋では先行グループの五人と 「ホワイト・アウト」だとのこ

〜三日停滞しなければと思って ース。天候が悪かったらここ二 を下る予定と言う。私と同じコ は縦走予定を変更して長塀尾根 山の会のメンバーで話す。彼ら た。残ったわれわれ私と習志野 行氏、六時半頃一人で出ていっ るが避難小屋のため快適。単独 朝ごはん、今日はしつかり摂っ ともに行動すべく準備にかかる。 し視界が五mくらいでは良くな はそれほどでもなかろう。しか っているような地形だから稜線 辺りはちょうど風の通り道にな かなり風が強いがここ避難小屋 ないとのこと。七時、外に出る ってくる。まったく視界が利か なると思った。単独行氏すぐ戻 いたので、彼らの判断も参考に ておこうと思う。暗い中ではあ い。うまく稜線を越えれ 三十日、四時起床。夜明けと ば後は

進む。まったく視界が利かず、

する。 体重七八㎏+荷物三〇㎏合計一 くるのに苦労する。樹林帯に入 胸まで潜ってしまう。なにしろ が積もっており、 グループに出会う。状況を説明 を思い知らされた。小休止後、 こんな状態はワカンが強いこと って一安心する。習志野のメン 〇八㎏、深みにはまったら出て て久しぶり。ルートを外れると ルしながら行く。ラッセルなん 難なくテープを探しながら下降 らめて下降してきた。樹林帯は する。彼らはその後すぐにあき さらに行くと下から登ってくる 下っていく。妖精の池を越え、 バーはワカンに履き替えている。 交代でラッセ

を確認する。すぐまた視界が五 らい視界が開ける。みなで方向 のに。稜線上で瞬間、二十mく 初めから一緒に行動すれば良い ろを付いてきている。それなら まにかあの単独行氏が我々の後 ていたので難なく済む。いつの に倒されたがザイルで引っ張っ に退却を進言するつもりであっ ここで分からなかったら本田氏 に下降する場所らしきところへ mくらいになる。 稜線上から左 かった。 えしてさらに暗闇の釜トンネル であった。大正池にて腹ごしら 吹雪の中で「こんなところで遭 お礼を言ってさっそく帰りの道 十三時頃徳沢に着く。本田氏に に比べれば天国のようなもの。 テープを探しながら登ったこと へ向かう。 難したら笑われる」と思うほど を進むが、明神、上高地ですら 十三年前、暗闇の中を同様に 釜トンネルの中が長



を探しながら行く。昨日のトレ れぞれの道しるべの赤いテープ 認できた。その後はみんなでそ でコースは間違えないことが確 に使った竹の棒を指差す。これ と本田氏が左手に古い道しるべ た。そこで彼に声をかけてみる

スの上に四十四くらいの新雪

て正しいコースを伝える。稜線 聞こえない。ザイルを引っ張っ

いられる。メンバーの女性が風 は暴風雪が強くて耐風姿勢を強 くは左であるから本田氏に声を

に下降していこうとする。正し

かけてもらうが、風雪が強くて

凍りつく。稜線上でトップが右 まつげが凍る。口元のフードが えて稜線に出ていく。たちまち さて小屋から雪の吹き溜りを越 ろしく」と声をかけてお 行くことになると思いますがよ 野のメンバーはアン・ザイレン 樹林帯だから安全である。習志

ってリーダーの本田氏に「後を している。準備が終わるのを待

山行報告

ス

子貞 夫

峰岳—塩見岳—三伏峠— 両俣小屋―北岳―間の岳―三 広河原-甲斐駒岳-仙丈岳 月二四日一三〇日 塩川

送ってくれたリエさんに感謝感 クは満杯である。車で空港まで さんの嬉しい差し入れでリュッ 時三〇分のJASで羽田に飛ぶ。皆 を放棄し三伏峠より下山する。 べに問題が発生して後半の山行 全山縦走を計画したがガスボン とっては南は初めてであるので 台風一過の秋晴を期待して南ア 八月二四日 プス縦走をこころみる。私に 大分空港より一六

ざす。

原に着いた。ここから北沢峠ま 二五日の午前一時一四分に広河 では芦安村の村営バスが運行し クシを使って広河原まで行く。 深夜の知らぬ町は不安なのでタ で二三時四三分に甲府につく。 宿で受け取り、急行「かいじ」 別便で送ったガスボンベを新

でガスボンベを販売していた ここ広河原のバス停の村営売店 今回ガスの輸送に苦労したが 早速テントを張って仮眠する

> じである。 これは長野県側の長谷村でも同 歩くしかないと言うことらしい。 道は自転車も通さない。嫌なら む。バスは村の独占企業でこの 徹収し一番バスに乗り込

らされる。この辺がいかにも日 本的で誰も文句を言わない。 荷物室も無く、皆膝に抱えて座 野呂川渓谷を左に見て、北沢 荷物代を取っておきながら、

根元にザックをデポして、水と バス待ちテントのそばの大木の ガンダキを思わせる。 食料だけの軽装で甲斐駒岳をめ するネパール・チベットのコシ ぐ絶景で、ヒマラヤ山脈を横断 峠にいたるこの林道は絶景に次 七時四五分に峠に着く。峠の

直登は大きな花崗岩の岩場であ える筈だが、ガスが視界をさま仙水峠から摩利支天が良く見 方岩で登り道と合流し双児山経 る。下りは摩利支天側を通り六 ためかなりきつい。甲斐駒岳の たげる。初日で寝不足と暑さの で北沢峠にくだる。

れたが、頼みこんで泊めてもら 大平山荘は予約が必要と言わ

52) - 北沢峠(14:58) - 大平山荘 :11-13:30) - 双児山2643.6m(13: 駒岳(11:.50-12:10)—駒津峰(13 駒津峰2700m(10:18-10:33) 甲斐 水小屋(8:25) —仙水峠(8:45) — 北沢峠着(7:45)-仙

晴後曇 五時一一分テ 二六日 (15:10)

出発の支度をしている。空は満 で水に不自由しない。 では結局我々が先に着いた。 で数グループに抜かれたが頂上 道をライトを頼りに進む。途中 る沢筋の大シラビソの原始林の かって藪沢カールから流れて来 こたえる。仙丈岳の馬の背に向 天の星である。20Kgの荷が結構 この登りは谷川を遡行するの

せる。 彿とさせる風情は疲れを忘れさ 花が岩の間に咲き雪渓はなかっ 発電の風車が数基あり、近くを 屋がある。綺麗な山小屋で風力 たが、ヨーロッパのアルプを彷 小川が流れ、綺麗な高山植物の ルモレーンの下に村営の仙丈小 丈岳の藪沢カールのラテラ

別れを告げて大仙丈岳に向かっ 合った女性群(オバタリヤン)に て岩尾根を進む。 々だけである。登りで声を掛け いるが仙塩コースを行くのは我 仙丈岳は多くの人で賑わって

やがて雨も小降りになり右俣沢 りは道らしいものはあるが木の 根が張り巡らして急勾配である。 抜ける風が冷たい。両俣への下 少し雨がぱらついて来て稜線を を過ぎると両俣の分岐につく。 今日最後のピークとなる横川岳 事をし、水溜りのような高望池 荒倉岳(2517.2m)で休憩して食

> 屋(2003m)が見える。 侯沢との出合にぽつんと両俣小 沢の左岸をしばらく行くと、左 の川音が高くなってくる。右俣

三時二〇分に起

するが、殆どの人が起きていて 両俣小屋は谷間にあるため、 けである。

ない。

である。 える。四時間の急登でバテバテ 背後に北岳と中白峰の稜線がみ を抜け出して這松が出てくると き八丁の急登である。 此から中白根沢の頭まで胸突

中白根沢の頭から北岳 への 稜

ートがみえる。

である。外にはテントが2張だ 両俣小屋の今夜の登山客は4人 裏

アルプスの山小屋には乾燥室が うにと、古新聞紙をくれた。南 別荘と言った感じである。明る が流れ山小屋と言うより谷間の いしる。靴の中を乾燥させるよ い感じの女主人が切りまわして はシラビソの森林で表は野呂川

2478m(14:03) — 野呂川越(14:25) 12:35) - 高望池(12:48) - 横川岳 7-8:55)—荒倉岳2517.2m(12:13-— 両俣小屋2010m(15:35) 丈小屋(8:01)—仙丈岳3033m(8:3 データー 大平山荘(3:45) -- 仙

に着く。 いるが水量は少なく無事に大滝 アドバイスで五時二〇分に出発 るくならなければ危険だと言う 行は丸木橋を数回渡り、流れを二七日 曇 野呂川左俣沢の遡 する。前日の雨で丸太は濡れて 七、八回左右に渡り返すので明

やがて林

て山荘へとくだる。 定をした庭のようである。 線は遺松の緑が美しくまるで剪 両俣小屋でもらった弁当を食べ 北岳ではガスでなにも見えず

りブランデーもウイスキーも焼 なしの生活となる。 酎も皆平らげてしまい、 泊まりとする。早速小宴会とな も見られるので無理をせず山荘 であったが、疲れもあり日の この日は熊の平まで行く予定 以後酒

35) - 北岳山荘(13:55) 根分岐(13:16) —八本歯分岐(13 の頭(9:47) ―肩の小(11:16) ―北 滝(7:00)—道標(7:35)—中白根 岳3192.4m(11:50-13:00)—吊尾 データー 両俣小屋(5:20) —大

風が出たが夜明前は満天の星空 りがすっかり明るくなると突然 やがて太陽が地平を離れ、あた を見る。富士の頭が小さく赤黒 出る。中白峰への稜線で日の出 二八日 富士が大きく立ち上がった。 く朝の輝きの中に突出している。 となった。四時五〇分に山荘 快晴 夜半に雨音がし

川側はカール状の地形で農鳥小 側が大きく崩壊している。大井 井川との分水嶺である。野呂川 は山梨県の野呂川と静岡県の大 間の岳と三峰岳との痩せた稜線 南は農鳥岳への下り、西は三峰 岳2990mの突起への下りである。 一から三国平に行くトラバース 間の岳3189mは岩の山である。

三峰岳から山塩渇根こ入り、と見える。ほんとうに遠い。い朝の空気の中に漂ってくる。い朝の空気の中に漂ってくる。ないがあれ、香ばしい山の匂いが暖かられ、香ばしい山の匂いが暖か

熊の平小屋から北荒川岳2698n 主と少し話して先を急ぐ。 三国平で小休止して急坂を少し三国平で小な熊の平小屋である。 に囲まれた熊の平小屋である。 下ると、綺麗な涌き水のある林下ると、綺麗な涌き水のある林

までの稜線の樹林帯は北アルプ スには無い南アルプス独特のし までの稜線の樹林帯は北アルプ

花畑が広がっている。 上には数人の人影も見える。ル 上には数人の人影も見える。ル 上には数人の人影も見える。ル を立られた塩見岳3047mが正面に が上には数人の人影も見える。ル はの塩見小屋ものぞまれる。頂 が上にまれる。頂 はの塩見がある。右手に赤い屋

いよいよ今日最後の登りである。塩見小屋では我々三人の姿、を見ているだろう。小休止の後、気合を入れて一気に頂上めざす。気合を入れて一気に頂上めざす。大り、大きい。西峰を下り天狗の方が大きい。西峰である。東峰と西峰である。西峰を下り天狗の方が大きい。西峰を下り天狗の方が大きい。西峰を下り天狗の方が大きい。西峰を下り入が二つを回り込めばそこは塩見いよいよ今日最後の登りである。

47m(15:47)—塩見小屋(16:30)川岳(13:00)—北俣岳分岐(15:0)川岳(13:00)

れる予感がする。 は天気に恵まれたがこの先は崩 乗鞍岳が望観される。ここまで 上から中央アルプス、穂高、槍、 帯のコースである。本谷山の頂 のを見て出発する。ここも樹林 行ったので二人に迷惑をかけた。 食欲もある。黙って一人食事に につく。食事はとても美味しく うと思いながら朝食のテーブル 1日停滞が必要だ三伏峠で考えよ 続くだろうかと少し不安になる。 のハードなアルバイトで疲れが なベッドで一夜を明かす。連日 二九日 朝日が塩見岳の頂上を照らす 復しきれない。デナリで体が 快晴 狭い穴倉のよう

営する。 停滞することにしてテントを設川の清流で体を洗い、ここで1日 三伏山からテント場に下り谷

たずはコーヒーでもとガスボンベを取り出して唖然とした。 マウントが違う。バーナーがセット出来ない。万事休すである。 のコース後半はビバークを数 このコース後半はビバークを数 の方定して準備したのにである。 がいけるがボンベのセットがよかったがボンベのセットがよかったがボンベのセットはよりである。

だちにテントを撤収し、滋賀大これで決まった、下山だ。た

:40)―熊の平小屋(9:21)―北荒―三峰岳299m(8:01)―三国平(8

峰(5:36)―間の岳(6:50-7:08)

北岳山荘(4:50) - 中

にむかう。 帯でタクシーを予約し塩川土場ってもらって三伏峠に上がり携ためやってきたので、食料を使ためやってきたので、食料を使ためやってきたので、食料を使か部の学生が数人テント設営のが部の学生が数人テント

伊那大島―松川IC―新宿―羽田データー 三伏峠―塩川土場―ニの分ぐらい休憩して回復する。二時間ほど下った頃、星する。二時間ほど下った頃、星する。二時間ほど下った頃、星

池辺明美 星子貞夫、境卓也、

山登頂(その三)

安藤セッ

七月一二日

(五日目)

木曜日

を 登山口にも馬がお客を待ってい では線、後で分かったが現地の な視線、後で分かったが現地の な視線、後で分かったが現地の な視線、後で分かったが現地の な視線、後で分かったが現地の な視線、後で分かったが現地の では歩かない。馬で行くようだ。

シオガマの大きく色鮮やかなこ山道に入ればすぐに花々々し、

を 早くも「この花ナンダー。」が始まった。花の写真を は まる。「五分休憩」一枚ぬぎ、水 明念する。日隆の街が小さくな が あった。一歩一歩進むことに ななかった。一歩一歩進むことに なる。「五分休憩」一枚ぬぎ、水 に 出た。これからはゆっくりし た 登りになる。

確認する。

の大田の変わりゆく姿に、段々と上の変わりゆく姿に、後々とは、その間に真っ白な峰長い。そよ風にゆらぐ花々を横長い。そよ風にゆらぐ花々を横長い。そよ風にゆらぐ花々を横いの変わりゆく姿に、遙々訪ねてり、あたりの人と入り込んでいることをが認する。

本」と相成った。 る広場に平らな石があり、そこる広場に平らな石があり、そこのガイドの言葉に持ちしか出来ないし、鷲でなく時をしか出来ないし、鷲でなくらい。但し身分金に寝かせるそうだ。但し身分金に寝かせるそうだ。但し身分金に寝かせるそうだ。

照りつけて暑い! かまいが、太陽はギラギラと迎えてくれる。草原を渡る風はつらに染めていたりと、次々にったいなが、太陽はギラギラといれよいが、太陽はギラギラとがはないが、大陽はギラギカの仲間が真

- 憩でつかれた人「ハーイ」「安一、た白い花が見られる。一○分休変わり、サクラ草やイチゲに似し ヒイラギが出てくると又花が

楽しい小父さんコンビ、「西楽しい小父さんコンビ、「お疲むかけて辿りついたら、「お疲をかけて辿りついたら、「お疲をかけて辿りついたら、「お疲をかけて辿りついたら、「お疲をかけて辿りついたら、「お疲をかけて辿りついたら、「お疲をかけて辿りついたら、「お疲をかけて辿りついたら、「お疲をかけて辿りついたら、「お疲をかけて辿りついたら、「西

生日であった。以後盛り上がる ける。又花々々の花畑、黄いろ のす。Aリーダー各々テントの 見回りに跳び出していった。突 然バースデーケーキの出現、加 然バースデーケーキの出現、加 際陽子さん、山田征子さんの延 藤陽子さん、山田で子さんの延

チベット馬夕立最中食べ続け日

夕立や脈拍数は九十に一日を歩き西瓜の塩旨く段々畑南蛮の花空にあり段々畑南蛮の花空にあり

快晴 (六日目) 金曜日

朝から太陽が眩しい。草は雨快晴

遙か下の方を弧を描き飛ぶ。 の姿。白い雲、青空、鷹の群が 眺望は四姑娘山の白く輝く美女 しそうー。四、〇五〇米からの ピッチを上げる。心臓が跳び出 ないからと渋っていた揚さん、 まで登りましょう。」最初道が 風景は東洋的な美しさなのです。 いう。皆元気で花に詳しいこと でクレマチス・タングティカと チを作り美しい。キンポウゲ科 クレマチスの仲間が黄色いアー はここの住民なんだー。石垣に 居犬が一匹、さっき見た黒豚君 が多くなる。石積みの豚舎と住 数が上がる。平坦になり落ち着 れにそってサクラ草がいっぱい。 顔、名前も覚えてなごやかなム りと草を食む。ガイドの揚さん に、花畑に腰をおろし、眺める き、又登る、その繰り返し。流 をトップに二五名の列。仲間の 粒を光らせ、ヤクも馬ものんび 「さあ、頑張って四、〇〇〇米 「休憩々々」花が多いので休憩 大海子(タイハイツ)を眼下 次々に花の名前が出て来る。 登りになると心拍

ニコ、ゼリー三コ、菓子ニツ、 く食べられる。 陽ざしは強いが風がさわやかな ので暑さはない。 ジュースーパック+自前のもの。 ゆで卵、ジャガイモの煮たもの ジャム、ピーナツバターをぬる。 昼食は食パンに好みでイチゴ それで美味し

ミヤマキリシマそっくりだが

ッタ、アッタ」で大喜び、可愛 ツモリ草が三輪足元に一。「ア 間のピンク、ケマン草の黄いろ、 いネエー、可愛いネエー。 珍しい花がある。探していたア 皆の足が止まればきっとそこに き辛いが花々々、シオガマの仲 花の色が薄く、名前が分からな て下さい。」とNリーダー。歩 クの道を通ります。充分注意し い。夢中でシャッター押す面々。 「折角上まで来たのですからヤ

こんな星空始めてーと言ってい 三七,三度、食欲あり、頭痛な 星がいっぱい天の川がはっきり、 子に今ひとつ乗れない一日でア 起きた時には熱は下がっていた。 ッタが、夕方になり熱が出た。 の群が草を食んでいた。何か調 を見る事にする。夜半トイレに し、吐き気なしで薬をのみ様子 大海子では朝と同じように馬

花海子(ホアハイツー)と湿

雨上がるここはチベット天の 雨上がる老牛園子星涼し シュラフより這い出して見ん 星月夜海子洵は脈々と 願い事語らぬまゝに流れ星

て来た。ヤクも散歩に来るらし ける。黒豚まで様子を見にやっ な葉の中に濃いエンジの花をつ ティミリア・ソウリエイ。大き と咲き、奇なる花はキク科プラ ス・インテグリフォリアが点々 は黄いろいケシのメコノプラシ 原が山裾との境を分け、足元に

糞があるので…。

星月夜白毛の馬の尿ながし 天空に鵲の橋立ち竦む 星とぶや三千六百チベット川 せ 0

(以下次号)

私の無名山ガイドブック国

城

山シリーズ

3

飯 田 勝 之

鳥

屋

の城山

(朝

地

町)

Ø 記されており、その後大友時代 ど無名で、訪れる人も少ない。 岳、 る。このピークはしかしほとん には城山と記され、三角点もあ にそびえるピークである。地図 と、神角寺渓谷の左手 (東側) 四二号線を温見から朝地に下る け離れたピークがある。国道四 る。この山稜のはずれに一つだ 最高点に達し、神角寺下ってい 記録には、 豊後国誌には「鳥屋城山」と 四辻峠から続く山稜は烏帽子 鎧が岳、日平を過ぎ秀峰で 大野荘上村半分の

> くカーブする所の沢から踏み込 前の峠のその少し手前から右に 寺に通じる道を上り、鳥屋の手 地頭の一万田氏の山城とある。 んで、谷をつめて登れるが、 緩く下りながら南から西に大き 入る荒れた林道を約二㎞入って、 は下山時に使うと良い。 登るのは神角寺渓谷から神角 ح

する。右手(北)は急に落ち込 わり、傾斜が急になる。どんど 林地を登っていくと自然林に変 がりならら再び登りとなる。造 となり、右(北)方向に緩く曲 をつけておいた方が良い。わず えやすい所で、しっかりと目印 岩のある急斜面の稜線を、木の なる。カエデやツバキやリョウ ぐ奥に急な斜面の自然林が見え かに下るとヒノキの造林地の中 が、引き返す場合は方向を間違 クに達する。ここから少し左 ほどで自然林の中の小さなピー 枝や幹につかまりながら急登し る。その斜面を直登することに あたりを登り口とすると良い。 下り始める。その舗装の切れ目 たところから大きくカーブして 装の林道を登ると、舗装が切れ ん登ると二番目の小ピークに達 ていくと、登りはじめて十数分 ブなどの二次林の所々に大きな 左(西)側のスギの造林地の直 落のはずれからコンクリート舗 からルートをとってみよう。集 (南) に曲がるように下るのだ 登りは鳥屋西の集落のはずれ 樹間から谷間が深く

> 樹林と伐採地の境目の稜線上に 伐採地である。山頂は右手 稜線上の一角で、前方は明るい こは山頂から南北に延びる長い りと明るい稜線に飛び出す。こ 登っていくと、やがてひょっこ 右に左に歩きやすい所を選んで キなどの低木の照葉樹の林を、 る。アセビやヒシャカキ、ツバ 見える。ここで再び方向を (西) 方向に変えて稜線をたど (北)の樹林の向こうにあり、

稜線が手に取るように見える。 岳山や、神角寺から秀峰に至る 鶴見の方まで、近くは眼下に男 北側は遠く阿蘇から九重、由布 生長して展望を塞いでいるが、 く。以前はほぼ三六〇度の展望 ら稜線上の踏み跡道を二、三分 が開けていたが、南側の木々が も辿ると三等三角点の頂上に着 を塞いでしまっている。ここか の木々も生長し、すっかり視界 線が続いていたが、次第に傍芽 は伐採跡の明るい展望の良い稜 なる。以前はここから山頂まで 樹林を抜け明るい低木の稜線と かりした踏み跡で、二、三分で ている。踏み込むとかなりしっ 左手の樹林の中に踏み跡が開け クで、よく見ると曲がり始める これは山頂の南西側にあるピー てそこが山頂のように見えるが 始める。前方にはピークが見え 地との境界は西に曲がって下り 北に向かう。数分も行くと伐採 あるかすかな踏み跡をたどって

印のテープもある。ここを踏み 鳥屋の集会場に着くことが出来 手前の町道に出ると二、三分で どでゲートを過ぎ、鳥屋の峠の はさほど傾斜はなく。三十分ほ びりと帰路をとる。荒れた林道 出たら右(東)に向かってのん 道に出ることが出来る。林道に と、鞍部から二十分足らずで林 もあり、忠実に沢を下っていく れる。沢沿いにかすかな踏み跡 がて枯れ沢となり、自然林が現 ん低い方向へと下っていくとや かまわずに谷状の窪地をどんど 踏み跡はあやしくなる。しかし キの造林地の中は歩きやすいが かって下る踏み跡がある。ヒノ 低いところあたりから北西に向 っと続いているが、鞍部の一番 現れる。稜線上の踏み跡道はず になり、 樹の中の稜線を緩く下ると平ら 込むと立派な踏み跡道で、照葉 の中に踏み跡道が入り込み、目 トル手前で、左(東側)の樹林 飛び出したところから数十メー くと、最初に稜線から伐採地に 良い。この場合、往路の樹林を んびり林道歩きで引き返すのも 左手にスギの造林地が

→(0:30)→林道→(0:30)→林道 30)→第二ピーク→(0:30)→城山 ◇参考タイム 鳥屋西集落→(0:

◇二万五千分ノー地図

朝 地

総会の返信ハガキより

隆尚) されるような年齢になってまい 体を使わずして、心だけが動か ビスタリーみたいです。 りました。私の山は相変わらず てここでもわかります。最近は て早一昔。世界の出来事はすべ 地(壱岐)にまいりまし (井出

した。 隆史) からの北側)を整備し終わりま ・御許山の旧登山道(御許林道 (赤テープ印)(宇津宮

きたいと思っています。 アケボノツツジを今年も見に行 あたたかくなってきました。 (太田

おりる

(橋本祥案)

痛く、今は毎日高尾山(明野) 時間ぐらい歩きましたが足腰が に行き少しづつ歩いています。 ・二月二五日に鎧岳に登り、一 (甲斐隆)

月八日に結婚式をします。 ・三月三日に入籍しました。六 りました。 太郎は宇宙工学を学ぶことにな 本)探索に行ってきました。慶 心に二三名で福寿草(自生二万 ・三月二一日にJAC95を中 (木本義雄)

玉章良) (児

っております。 しく。日田周辺の山々を方々登 とんどありませんが今後もよろ ・月例山行、参加する機会がほ (佐藤浩幸)

す。 ・仕事が忙しく、 (佐藤良彦) 元気でありま

(土居慶典) 近くの低山に登っています。

・おかげで元気です。高崎山に

落ち葉みち赤い実小さく転が 山頂は風なくひとりめしを食 木立の向こうに雪山猿みちを

ています。(由布岳、 ・月1回程度、健康登山をやっ 福万山

くても良い」と言われた次の日 にまた犬と転んで、三週間ぐら 末に先生より「もう病院に来な 間火傷のため、自宅静養。二月 ・一月末~二月末まで一カ いの怪我。今現在、元気です。 (林昭子)

倉山 た。 先日福岡県香春~福知山~皿 (全長二八km) を歩きまし (八重康夫)

す。

・先月は故郷の里山「小富士 に登ってきました。 春の里

> 昭三 いことだと知りました。 山をのんびり歩くのもまた楽し (渡部



オススメ映画

よごり

西 あ ず ż

臼杵からそして大分の封切りで らいで、東京より先に、まずは ・・・という大林宣彦監督の計 た。封切りはもちろん大分から 県下でロケが行なわれた映画 題歌として、臼杵を中心に大分 ことのある曲『なごり雪』を主 の世代の方々が一度は耳にした こちで耳にしました。さまざま の歌を口ずさんでいるのをあち った会場を出ていく人たちがこ いになった・・・』上映が終わ になった、去年よりずっときれ 『なごり雪』ができあがりまし ♪『今、 春が来て君はきれ

に感謝の気持ちを込めて作った 大分を第二のふるさとと思いな 映画です」と話す大林監督は、 「大人になった私がふるさと

> ねあわせて、見る人の心象風景 代の自分やふるさとの風景を重 です。この作品の向こうに、十 がらこの作品を作り上 を膨らませていきます。

う。 この映画にはやっぱり彼でしょ ません。イルカの歌声が耳に残 別れ』『海岸通り』『君と歩い っている方も多いと思いますが、 表見が変わってきたのかも知れ たのかな・・・歳を重ねた分、 た。聞き慣れたアレンジとは違 た青春』と懐かしのナンバーが コンサートがあり『二十二歳の 詞したそうです。上映後、ミニ ふるさとの駅を思い浮かべて作 京でのお話になっていますが、 です。『なごり雪』の歌詞は東 見出身の元かぐや姫のメンバー い、今回映画のために書き直し 続きラストが『なごり雪』でし 作詞作曲の伊勢正三氏は津久

きます。 り合わせていくように流れてい 前の回想シーンと現在が時を織 田と雪子でした。物語は二八年 が東京の大学に行くまでは・・ 子)はいつも一緒でした。祐作 の出迎えと見送りをしたのも水 ・その後、何度か帰省する祐作 一郎(ベンガル)雪子(須藤温 梶村祐作 (三浦友和) 水田健

けている。帰ってきてくれ」と そこに水田から「雪子が死にか げられ自殺を考えていました。 連絡が入ります。二八年ぶりに 東京で暮らす祐作は妻にも逃

のふるさとへの憧憬が感じられ のもいいが、変わらないのもい す。懐かしい町並を歩きながら いだろ」と語る水田に大林監督 ッドで横たわる雪子と対面しま 顔まで包帯に覆われて病院のべ ふるさとに帰ってきた祐作は、 「どんどん新しく変わっていく

ちないように、酒に飲まれない にはフェンスが無い。無ければ かも知れません。 を理解し大切にしている人なの もしかすると大分県人より大分 督の舞台挨拶の中の一説です。 ような飲み方をする」と大林監 っ払いは酒に飲まれて転がり落 よりは若者が守り、お花見の酔 大人が子どもの手を取り、お年 ずフェンスが入りますが岡城阯 われ「観光地でロケをすると必 ロケは竹田の岡城阯でも行な

ゆっくりとしたときの流れを支 とを懐かしく回想できる様に、 並のたたずまいをあたたかく捉 フとセリフの間が準備されてい える音楽と淡々と語られるセリ え、見る人がそれぞれのふるさ 坂の上の雪子の家など、古い町 ます。また、臼杵市内の石畳や を叙情豊かにカメラに納めてい 竹宵」といったふるさとの祭り 「石仏火まつり」や「うすき

> 後県内を巡回上映されます。 ・シネフレックスで上映、その でしょう。 四月二七日より大分シネマ5



お 知 5 せ

五月月例山行の ご案内

·月日 目的 石山(大三九.五m) 五月二六日 (日) (宇佐市)

日

程等

一発

二六日午前六時サニ

六月月例山行の

・月日 目的 日程等 奥天井 (九五八.九m) 六月二三日 (日) 二三日午前五時サニ 発 (緒方町)

参加費

·一八,〇〇〇円(宿泊代、

さとへの想いを深めていく作品 うが、臼杵を通して自分のふる な思いでご覧になることでしょ

臼杵になじみのある方は格別

七月月例山行の

月日 七月二八日 (日) ご案内

目的 日程等 倉木山(七二七.二m) 二八日午前五時サニ (緒方町)

に事務局に御連絡下さい。 参加者は当日の四日前まで

りますので必要な装備をして 三回とも多少ヤブこぎが有

会(二〇〇二年広島集第一九回全国支部懇談 のお知らせ

支部懇談会

・場所 ・日時 ・記念講演会、懇談会、懇親会 11 FAX0829-56-3348) (広島県大野町TEL0829-56-01 安芸グランドホテル 九月二一日 (土) 一三時三〇分より

記念山行 · 日時 九月二二日 (日)

行き先 A 班 В 班 宮島観光 宮島~駒ケ林 ハイキング

C 三倉山

楽しむ人もついそこまで車を乗

しげ。そうして、けっこう山を にも賛否両論。地元の人は誇ら 時間の半分で登れます。この道 こまで来れば、不動岩から登る 来ると聞いていたが…) 車でこ ときには木が伐採され、道が出 が開通しました。(一年前来た 鞍部にコンクリート舗装の林道

り入れてしまう。

「道が出来て

バス代等) 親会費、弁当代、 記念品代、

いるのが分かって遠回りするの

い合わせ、申し込み

96 FAX082-296-0997又は東九 広島支部事務局TEL082-296-09 州支部事務局まで



なるのを喜ぶ人と、嘆く人と。 〇 国東の千灯岳の山頂直下 すが…・・・。 の中に飲み込まれてしまうので 林道はそのうちに山の自然崩壊 擁壁を施さないと、使われない い道も…。舗装やコンクリート ような所や、一日中車の通らな 本当に必要なのかと首を傾げる 工事は進められているようです。 ごろですが、やはり相変わらず 道工事が勢いを潜めているこの ざまじい勢いですすめられた林 賛否両論。ひと頃のように、す 昔から日本中で繰り広げられた 林道の開通で山登りが楽に

の春でした。 や新芽の芽吹きがいつもよりず の天気続きで、全ての花の開花 もばかばかしいから…。 寄稿をお待ちしています。 0 盛りを過ぎている花ばかりのこ の到来、そして初夏のような春 〇 暖かな冬に続いて、早い春 原稿が途絶えました。引き続き いぶん早く、行ってみるともう 「私の四十周年記念登山」

日本山岳会東九州支部報

(平成14年) 2年 4月 25日

木田 秀勝 発行者 徳 編集者 飯 之 発行所 **T870-0021**

市府内町1-3-16 サニースポーツ内 西 孝子 TEL·FAX 097-532-0926 大分市府内町1 孝子方 TEL · FAX

題字 藤正八